

平成 23 年 12 月 16 日

消 費 者 庁

冬の身近な危険について その2

「燃焼」を伴う暖房器具を使う際は、 一酸化炭素中毒にご注意を！

消費者庁では、3回にわたり、特に冬の季節の事故事例をご紹介します。消費者の皆様にご注意を呼びかけています。第1回「湯たんぽによるやけどにご注意を！」(11月30日)に続いて、今回は、暖房器具等の使用時の一酸化炭素中毒事故について注意を呼びかけます。

今年の冬は節電のため、エアコンや電気ストーブの使用を控え、石油機器、ガス機器、炭等を使用して暖をとる方もいらっしゃるでしょう。

こうした「燃焼」を伴う器具を、閉め切った室内で換気をせずに使用しますと、不完全燃焼による一酸化炭素中毒を引き起こすことがあります。

以下に、暖房器具等による一酸化炭素中毒の事例と、事故予防のポイントをお知らせします。

師走も半ばを迎え、寒さも一段と厳しくなってきました。暖房器具等を正しく使用し、節電の冬を乗り切っていきましょう。

1. 暖房器具等による一酸化炭素中毒事故の事例

■事例1

石油ストーブを就寝時に消火せず、気密性の高い閉め切った室内で長時間使用していた人が、一酸化炭素中毒で死亡した。(平成21年12月 事故情報データベース)

■事例2

駐車中の自動車内でガスストーブで暖をとっていたとみられる2人が、一酸化炭素中毒の疑いで死亡した。(平成22年1月 事故情報データベース)

■事例3

絵画教室において練炭で暖をとっていて、参加者が、一酸化炭素中毒を起こした。(平成23年1月 事故情報データベース)

■事例4

計画停電に伴い、ダイニングにおいて七輪に炭をおこし暖をとっていた人が、一酸化炭素中毒を起こした。(平成23年3月 ※東京都報道発表)

※東京都生活文化局消費生活部生活安全課 平成23年11月公表

「発電機・木炭等による一酸化炭素中毒の危険性 一酸化炭素中毒事故を防ぎましょう」

2. 暖房器具等による一酸化炭素中毒を防ぐために

- 一酸化炭素は無味無臭の気体なので気づきにくく、対応が遅れることがあります。頭痛・耳鳴・めまい・吐き気など、暖房器具等を使用中に少しでも体に違和感を覚えた場合は、ただちに使用を中止し、換気を行い新鮮な空気を取り込むようにしてください。
- 最近の家屋は気密性が高くなっています。暖をとるためとはいえ、窓等を閉め切ったままでの使用は危険です。室内の酸素を利用して燃焼する暖房器具等を使用する際には、一酸化炭素濃度の上昇を抑えるため、1時間に1～2回、1～2分程度換気を行ってください。換気に当たっては、換気口として2か所以上の風の出入のある開口部を設けてください。また、車内など狭い空間では暖房器具を使用しないでください。
- 暖房器具等を消火する際には、完全に火が消えたことをしっかりと確認してください。消したつもりでも火が残っており、不完全燃焼を起こす場合があります。
- 特に古い暖房機器は、部品が劣化して不完全燃焼を起こしやすくなっているものや不完全燃焼防止装置が付いていないもの(金網式ガスストーブなど)があるため、使用を中止していただくか、安全装置の付いた製品に交換してください。

(参考)一酸化炭素中毒について

一酸化炭素(CO)は、炭素を含む物質が不完全燃焼を起こした場合に発生します。

一酸化炭素は体内に取り込まれると、血中のヘモグロビンと結びつき、血液の酸素運搬能力を下げます。これにより細胞に酸素が十分に行き渡らなくなり酸欠状態を引き起こします。そのため、めまいや頭痛、吐き気といった症状を呈し、死に至ることもあります。

さらにこうした急性期中毒症状が回復した後、数日から数週間後に記憶障害、意識障害、不整脈等が現れる間欠型一酸化炭素中毒に移行する場合や、急性期の症状が出なくても間欠型一酸化中毒に陥ることがあります。特に低濃度でも長時間に渡り曝露されていた場合、後に間欠型一酸化炭素中毒になることがあります。

3. 一酸化炭素中毒を起こす可能性があるとして事業者による回収等が行われている製品

以下の製品は、事業者によって回収等が行われています。該当する製品をお持ちの方は、直ちに使用を中止して、事業者に連絡してください。回収対象となっている製品が、思いがけずご家庭に眠っているかもしれません。使用の際には、まず製品が回収対象品でないかご確認ください。

また、製品購入時にしっかりとメーカー名・型式等を控えておくことで確認できて便利です。

①製造者：パナソニック(株)(旧社名：松下電器産業(株))

商品名：FF式石油温風機

品番：OK-2525、OK-2526、OK-2535、OK-2536、OK-3525、OK-3526、OK-3527、OK-3535、
OK-3536、OK-3537、OK-4020、OK-4030、OK-2526HA、OK-3527HA、OK-4020HA

製造年：1985年～1991年

品番：OK-302B、OK-303B、OK-402B、OK-403B

製造年：1991年～1992年

商品名：石油フラットラジエントヒーター

品番：OK-R500F、OK-R501F、OK-V501F、OK-U501AF

製造年：1989年～1991年

品番：OK-R800C、OK-R800AC

製造年：1989年～1991年

概要：1台当たり5万円で引き取り、もしくは無料で給気ホース部の点検修理。該当製品を未処置のまま使用すると一酸化炭素を含む排気ガスが室内に漏れ出し、死亡事故に至る恐れがある。

問合せ先：パナソニック FF市場対策本部 0120-872-773

受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日を除く)

FF式石油温風機

品番：OK-2525

OK-2526

OK-2535

OK-2536

OK-3525

OK-3526

OK-3527

OK-3535

OK-3536

OK-3537

OK-4020

OK-4030

OK-2526HA

OK-3527HA

OK-4020HA

製造年：1985年～1991年



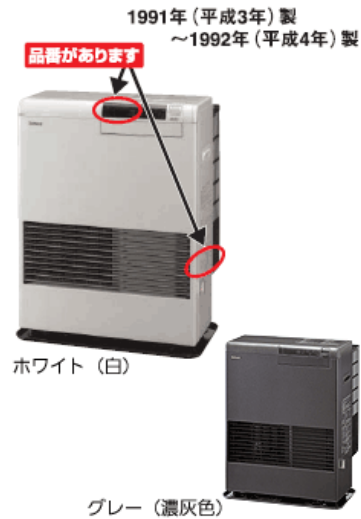
品番：OK-302B

OK-303B

OK-402B

OK-403B

製造年：1991年～1992年



石油フラットラジアントヒーター

品番：OK-R500F

OK-R501F

OK-V501F

OK-U501AF

製造年：1989年～1991年



品番：OK-R800C

OK-R800AC

製造年：1989年～1991年



②製造者：三洋電機コンシューマエレクトロニクス(株)

商品名：石油ファンヒーター

型番：CFH-S221F 色：木目、白

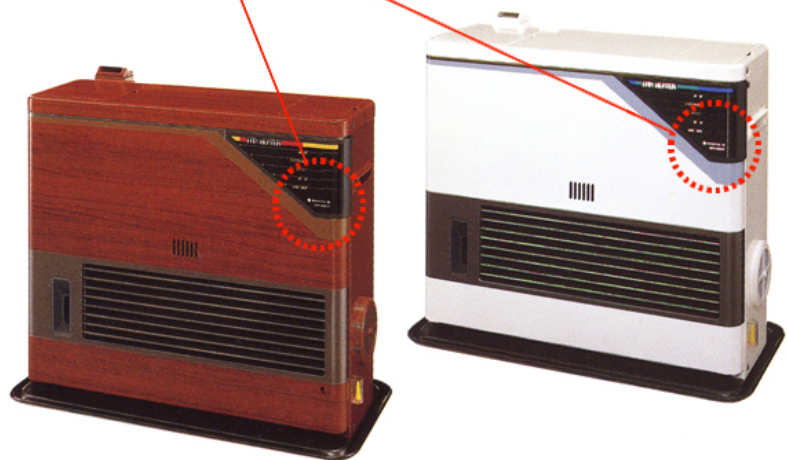
製造年：1984年

概要：製品回収。そのまま使用を続けると、一酸化炭素中毒による死亡事故に至る危険性がある。

問合せ先：三洋電機コンシューマエレクトロニクス(株) 0120-12-1381

受付時間：9:00～17:00(土・日・祝日・会社休日を除く)

機種名は点線部分に表示してあります。



③製造者：(株)トヨトミ(旧社名：豊臣工業(株))

商品名：石油ファンヒーター

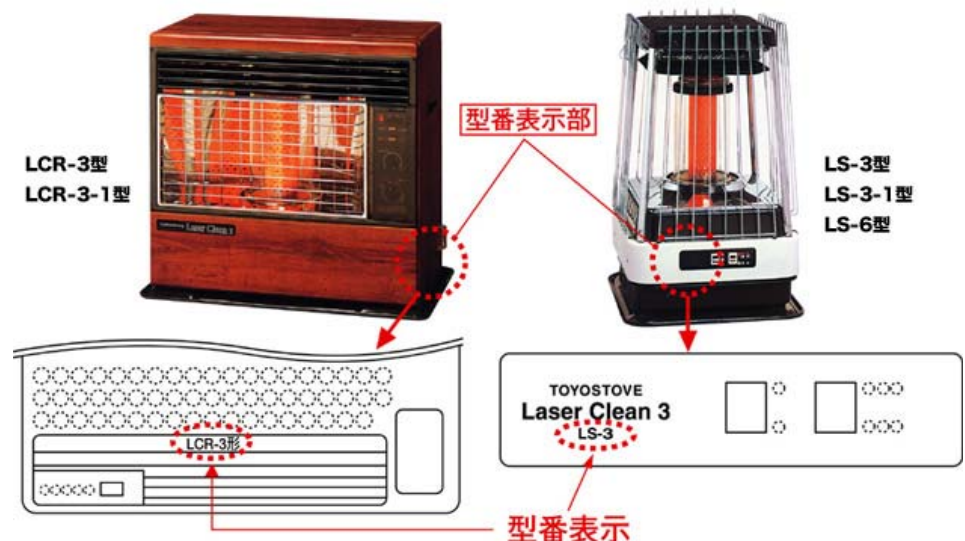
型番：LCR-3、LCR-3-1、LS-3、LS-3-1、LS-6

製造年度：1982年～1984年

概要：製品交換。該当製品の使用により、一酸化炭素中毒が起こる可能性がある。

問合せ先：(株)トヨトミ 0120-104-154

受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日を除く)



4. 暖房器具等による一酸化炭素中毒の注意を呼びかけている関係機関のウェブサイトの紹介

東京都 生活文化局 消費生活部 生活安全課

「発電機・木炭等による一酸化炭素中毒の危険性 一酸化炭素中毒事故を防ぎましょう」（平成23年11月）

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2011/11/60lbe100.htm>

独立行政法人 国民生活センター

「いろいろ座卓使用時の一酸化炭素中毒に注意！」（平成20年9月4日）

http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20080904_2.pdf

独立行政法人 製品評価技術基盤機構

「暖房器具による事故の防止について」（平成23年10月20日）

<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs111020.pdf>

社団法人 日本ガス石油機器工業会

「消費者の皆様へ」

<http://www.jgka.or.jp/consumer/index.html>

「ガス機器の利用にあたって」

<http://www.jgka.or.jp/consumer/gasu-riyou/index.html>

「石油機器の利用にあたって」

<http://www.jgka.or.jp/consumer/sekuyu-riyou/index.html>

《問合せ先》

消費者庁 消費者安全課

小林、渡邊、角野

TEL : 03-3507-9146

FAX : 03-3507-9290

HP : <http://www.caa.go.jp>